

水稲用除草剤適正使用について

(財) 日本植物調節剤研究協会

当協会では、水稲用除草剤の効果の安定と水田外への流出防止のため、散布前後の水管理の徹底を啓発する事業を行っています。その一環として、とくに散布後7日間落水、かけ流しをしないよう注意を促すキャンペーン広告を、会員会社の協力を得て、4月から6月にかけて日本農業新聞上に掲載し、その記事を植調協会ホームページでも紹介しています。

一般に、水稲用除草剤は、散布後有効成分が水中に溶解し、水田水を介して水田土壌の表層に拡がって除草効果を発揮するため、散布後新聞広告 (全7段)

に止水し、水を水田の外に流さないことは、除草効果を安定させるとともに水田外への成分の流出を防ぐことになります。

この除草剤適正使用キャンペーンは、畦畔の整備とともに散布後7日間、水を水田の外に出さないよう周知徹底を図るものです。

なお、全7段広告記事では、かけ流しをさせないための水管理法として、当協会が提案している水稲用除草剤散布後7日間給水しない止水管理を紹介しています。

以下に新聞広告を掲載致します。

平成22年度 除草剤適正使用キャンペーン

水管理をしっかりと!

水稲用除草剤 散布後7日間は、落水、かけ流しをしない。 畦畔を確認しよう。 水尻を確認しよう。

湛水状態で散布された水稲用除草剤の有効成分は、一般的に一旦水中に溶け出した後、徐々に水田土壌の表層に吸着されて除草効果を発揮します。安定した除草効果を得るためには、この土壌表層の処理層を破壊しない水管理が大切であり、特に散布後7日間の水管理が重要です。田植前の散布でも散布後7日間は注意が必要です。あらかじめの畦畔のひびや崩れ、モグラ、ザリガニ、ケラなどの小動物による穴を補修するなど、散布前にも確認が必要です。

散布直前には、水尻がしっかりと止まっていることを確認し、水稲用除草剤の水田外への流出を防ぎます。

このキャンペーンは、除草効果の安定と水田外への薬剤流出防止のため、水稲用除草剤散布前後の水管理の周知徹底を図るものです。

財団法人日本植物調節剤研究協会では、かけ流しをなくすため、水稲用除草剤散布後7日間給水しない止水管理を提案しています。

詳細は当協会のホームページ
をご覧ください。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
http://www.japrr.or.jp/

このキャンペーンを協力、推進しています。

イッテツ (イッテツ株式会社)
イッポン (イッポン株式会社)
イネキング (イネキング株式会社)

エーワン (エーワン株式会社)
キヤ (キヤ株式会社)
クワリーDX (クワリーDX株式会社)

サスケ (サスケ株式会社)
サラブレッドRX (サラブレッドRX株式会社)
シノノグ (シノノグ株式会社)

シノノグ (シノノグ株式会社)
スマート (スマート株式会社)
デラガード (デラガード株式会社)
ポテガード (ポテガード株式会社)

ワイズ (ワイズ株式会社)
ワイズ (ワイズ株式会社)
ワイズ (ワイズ株式会社)

平成22年度 除草剤適正使用キャンペーン 協賛会社

石原産業株式会社 住友化学株式会社 バイエル作物ケア株式会社
株式会社エス・エス・バイオテック タケノコ日本株式会社 BASFジャパン株式会社
協友アグリ株式会社 デュポン株式会社 北興化学工業株式会社
ウミイ化学工業株式会社 日産化学工業株式会社 三井化学アグリ株式会社
シンゲンジャパン株式会社 日本農業株式会社

新聞広告（全5段）

平成22年度 除草剤適正使用キャンペーン

水管理をしっかりと！

このキャンペーンは、除草効果の安定と水田外への薬剤流出防止のため、水稲用除草剤散布前後の水管理の周知徹底を図るものです。

財団法人 日本植物保護研究協会
http://www.japri.or.jp/
平成22年度 除草剤適正使用キャンペーン協賛各社

確認しよう。
不適切な水管理は除草効果を低下させるだけでなく、河川等への流出の原因にもなります。

畦畔の整備は万全ですか？
田面水が漏れないよう畦畔は草の増殖をしないよう、散布前にも確認しましょう。

田面水が流出していませんか？
田面水が流出しないよう水を張り、水口・水尻を止めて散布しましょう。散布後7日間には灌水・かけ流しをしないでください。

ラベルをよく読みましょう！
必ずラベルをよく読み、使用量・使用時期・使用回数を守りましょう。記載以外には絶対に使用しないでください。



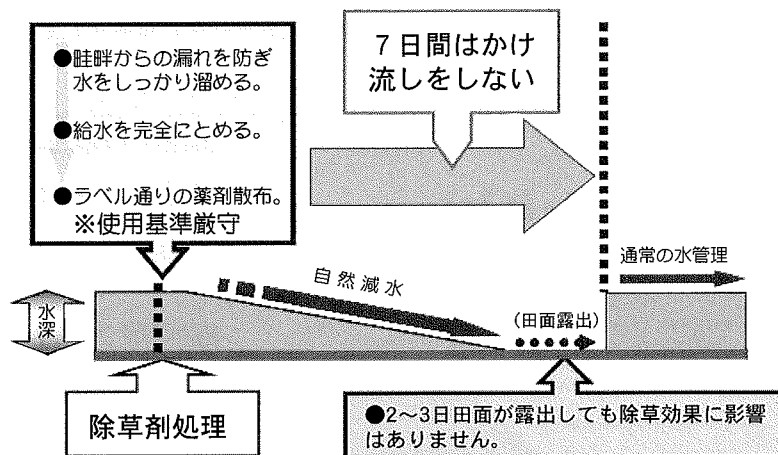
⚠ 散布後7日間は落水、かけ流しをしないでください。

財団法人日本植物保護研究協会では、かけ流しをなくするため、水稲用除草剤散布後7日間は給水しない水管理を提案しています。詳細は当協会のホームページをご参照下さい。

植調協会の提案する除草剤処理後7日間給水しない止水管理

- 除草剤を処理した後7日間は水田水が水田外に出ないように排水口を止め、さらにその期間は給水も止める方法です。

「除草剤処理後7日間給水しない止水管理」の模式図



- 7日間給水しないで済むように田面水を維持するためには

- ①畦畔を水漏れがないように整備する。
- ②田面の露出がないよう水を溜める。
- ③排水口を水漏れしないようにふさぎ、給水を止める。

☆注意

- 以下場合は適宜給水して湛水維持に努めるがオーバーフローに注意する。
 - ①低温対策等、栽培上湛水が必要な場合
 - ②散布翌日に田面が露出するような漏水田
- 田面が露出後ヒビ割れるような場合は給水する（オーバーフローに注意）。